

氏名	大 野 広 子		
学 位 の 種 類	医 学 博 士		
学 位 授 与 番 号	乙 第 1518 号		
学 位 授 与 の 日 付	昭和59年12月31日		
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）		
学 位 論 文 題 目	近視性網脈絡膜萎縮症の電子顕微鏡的研究		
	第1報 脈絡膜の変化について		
	第2報 網膜色素上皮細胞の変化について		
論 文 審 査 委 員	教授 小川勝士	教授 村上宅郎	教授 栗井通泰

学位論文内容の要旨

著者は近視性網脈絡膜萎縮症の病態を解明する目的で、3例の高度近視眼について変化の強い脈絡膜と網膜外層について光顕と電顕で検討した。脈絡膜の変化は後部ぶどう腫の部位が最も著明で、脈絡膜内層よりも外層の方に著明にみられた。脈絡膜血管の消失は脈絡膜毛細血管から始まると考えられるが、一度脈絡膜循環障害が起ると脈絡膜外層の変性が著明に進行し、部分的ではあるが末期まで残るのも脈絡膜毛細血管であると考えた。また、視細胞消失の程度は網膜色素上皮細胞の変化の程度と密接な関係があり、さらに網膜色素上皮細胞の変化の程度には脈絡膜循環障害が大きな影響をおよぼしていると考えた。したがって、近視性網脈絡膜萎縮症では、脈絡膜循環障害がその発生に大きく関与していると結論した。

論文審査の結果の要旨

本研究は高度な近視性網脈絡膜萎縮症の摘出眼球につき、脈絡膜と網膜外層を光顕・電顕的に検索し、脈絡膜の変化が毛細血管の消失に始まり、後部ブドウ腫の部で強く、且、脈絡膜外層で顕著なこと、また脈絡膜循環障害が網膜色素上皮細胞の変化、ひいては視細胞の消失と密接な関係をもつことを明らかにしたものであるが、本症の発生機序について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。